

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議 会議録(4日目)

(令和3年2月19日 午後1時00分)

●議長(森山木の実) 休憩を解き、会議を開きます。

通告の8、佐藤博一議員。

1 町長の政治姿勢について

議席番号3番・佐藤博一議員。

◆3番(佐藤博一) 議席番号3番・佐藤博一でございます。今回も前回に続きまして、町長の政治姿勢についてという件名で、質問をしたいと思います。その中に、4つほど項目を分けて考えました。

まず、最初の項目でございますが、コロナ禍の中の予算編成ということで、同僚議員が昨日、今日、だいぶ質問をしておりました。かなり、おいしいところを持っていかれました。詳細は、だいぶお聞きしましたので、一番は政治姿勢ということでございますから、町長のこういった予算編成していくところに、後にもちょっと書いたのですけれども、町長のカラー、そういったものをどう反映し、町長の政治手腕を発揮されようとしたのか、意気込みをお伺いします。

●議長(森山木の実) 横川町長。

■町長(横川正知) 佐藤議員さんのご質問にお答えをさせていただきたいと思っております。予算編成に当たっての政治姿勢、そしてまた、私自身の町長としてのカラーということでございますが、私、あまり色がないものですから、あまり申し上げられない部分もあるのですが、今議会を通じて私の方からも様々なご質問にもお答えをさせていただいているところでございます。必要な所には必要な予算を付けなければいけないということは、基本的に原則として持っておりまして、そして、何度も話題になっておりますけれども、置かれている財政状況、これもしっかりと据えながら対応をしなければいけないということで、やってきているわけでございます。今の話、町長カラーをどう出すかということでございますが、私自身は、行政に取り組む姿勢としましては、基本的に行政そのものは、総合行政であっての推進ということでございます。そのことをもって、町民の利益の向上と言いますか、福祉の向上と言いますか、そういったことを目指していくのだということが、大きく捉えれば、そういう思いでやってきております。例えば、令和3年度予算においても、財政上も厳しい中ですが、むしろ今までやってきている福祉制度、あるいはそういった継続事業等々についても、やるべきことはやらなければいけないという思いで、進めてきているわけでございますし、今回特に土木予算の関係も大変比率的には伸びております。これらも道路、橋梁の点検等々、国の政策に基

づいて、やらなければいけないという部分がございます、そういったことでは、かなり土木予算も伸びている、更に昨年から話題になっております、子育ての基本であります保育所の運営、いわゆる保育士の不足については、何としても子育てのまさに重点的な拠点事業でございますので、教育委員会にもご苦勞をいただいて、そのようなことの充実にも目指してきたと、更に教育関係においても、通称、ギガスクール関連、あるいは町独自としても放課後の子どもさんの自学、自習と言いますか、そのような新事業についても手当をさせていただいているということでございます。何よりも町として、継続的に様々な必要な事業については、しっかりと対応をしていかなければいけない、そういう思いで、予算編成をさせていただいたし、また、自身の思いとしても、そういうことでございます。

●議長(森山木の実) 佐藤議員。

◆3番(佐藤博一) カラーって、特にそんな色々な揶揄するつもりでカラーと書いたつもりじゃなくて、文字的にちょっと私も、これは古い表現を使ってしまったなど、反省をしております。今、町長おっしゃったように、令和3年度の予算書をいただいたときに、けっこう俯瞰的な面で全体を見渡してみると、相当これ、町長はじめ皆さん、苦勞されて作ったなというのが、一番感じました。おっしゃるように予算を付けるところには、ちゃんと付けていく、シーリングをかけながら、削るところは削っていく、けっこう頑張ったなというのは、私の印象です。そういう中で、実際、町長の初日の挨拶にもありましたけれども、当然、詳細はあまり突っ込みませんが、財政の健全化、これはもうよくお分かりのことですし、あと歳出削減のこと、その他事業の検証もしながら、更に新規事業の当然これから長期振興計画、地方創生関連、また連携中枢都市等をうたわれ、核とするものは核としてお持ちになりながら、また過疎法というものも、これからまた、それも視野に入れながら、お考えになっているなど、ただ、こういった言葉をだんだん並べていくと、耳障りがだんだん良くなって、耳の聞こえ心地がつい良くなっちゃうのですけれども、実際は相当苦勞して組んでいる予算だなというふうには思いますし、今おっしゃった住民の福祉の向上と各課、また特に来年度は観光は、これは、致し方ないなど思うぐらい減らしているという感じは得ましたが、住民の方が納得できるような予算組みに向かっているなど感じました。先ほど、そういった子育てとかですと、当然、前からの人口増施策にはつながっていくことにも、若い方々を呼び込むという面では、子育て、また学校関係を充実させるというのは、信濃町は住みやすい所だというふうにもつながっていくでしょうし、道路とかもだいぶ年数が経っておりますので、そういった橋等も直していかないと、そういったインフラ整備もまた、人を呼び込むのには大事なところですし、今こういう逆にコロナの時代ですから、一番のベースとなるものに、ある程度お金をかけていくのだなというふうに感じました。これはちょっと私、日頃からずっと感じているのですけれども、やはり予算を組むということは、やはり住んでいらっしゃる皆さんの幸福度を高めていく施策かなというふうに考えております。よくこ

こ近年、幸福というのはハピネスではなくて、ウェルビーイングという言葉で結構表現されていますけれども、やはりそれは、うちの町の長期振興計画にも昔ありましたけれども、住んで良かったという、まさにそこに至ると思うのですよね。そういうところが、今まで町長が進めてみえた人口増、また移住というところにもつながっているところだと思いますので、非常にその辺は、応援したく思います。実際かなり、特色は、私はけっこうあると思うのですけれども、その舵取りをどうされていくというのは、これからまた、このコロナという中での制約ある中で、動いていかれるというところは、一番頑張ってもらいたいと思います。移住施策、定住、あとは空き家、そういったものも、地元業者さんを使うとか、かなり踏み込んでいらっしゃると思います。それが人口増、しかしながら、その人口増については、自然減とか社会減と、いたちごっこみたいな数字の追いかけて何とかやってる、頑張っているなどと思いますが、同じ人口増でも、やはり我々期待をしたいのは、あまり言うと怒られますけれども、労働力となる人口増だと思います。その労働力となる人口増の方々、それが先ほどの子育て世代に一番直結してくれば、将来、ありがたいなというところなのですが、その人口増をねらうと本来なら、私なんかも昔やっていた企業誘致まで、何とかいきたいところですが、今ノマドワークセンターで、もうあれが企業誘致の一環だと捉えて動いていますけれど、それはまだまだ、人と人の都市部との交流が難しい面もあるので、なかなか企業誘致というところは、難しいかなと。先ほど、午前中も同僚議員がIOT導入の農業の実験の方ですよね、その件もちょっとおっしゃっていましたが、実際、そば産業は、だいぶ先ほど数字を聞いていただいている数字を聞いて驚いたのですけれども、こういった新たなIOT導入ということで、国の方からは予算はすぐ取りやすいと思うのですよ。もっと大事なものは、そのそばの産業をどう育成して、最終的には販路だと思います。やはり売ることを考えて、そこまで全部考えないと、ただただ、この信濃町がそばの産地でございます、実験場でございます、で終わってしまっただけでは、そういった機械屋さんなりIT屋さんのただただ実験の道具で終わってしまう。過去に、副町長やってらしたかと思うのですけれども、矢保利の館あたりでも車のメーカーさんが、信濃町にも来て実験的なことで動いているという話は聞いたことあるのですが、それが単なるここが実験場ではなくて、やはり実際の本当に働く場になっていくような事業展開なり、構造的なものをやっていただければと思います。それでひとつ気になるのは、町長にちょっとお伺いしたいのですけれども、新しいそういったIOT使ったものとか、新しい実験場とか入ってきて、信濃町は農業の町で、どちらかというと農村部ですけれども、やはり高齢化が相当進んでいる町で、農業者ですよね。そうすると、普段、我々の周りでも高齢の方が家庭菜園をやったりとか、農業も結構ある程度、年しながら頑張っている。近所でもだんだん会社をリタイヤされて、都会からもリタイヤした方々が来る。その方々を健康で、更に長生きをしていただくには、やはり外を出歩いていただかなければいけないなと思っているのですが、そういった高齢者、高齢化が今どんどん進んでいると思うのですけれども、その高齢者のパワー、力、それが本当に今度、労働力としてどうつながっていくのかな、もしくは、ただただお年寄りの町になっていっちゃうのかなと、

非常に懸念をしているところあるのですけれども、今後のやはりこの町の自分も65歳になりましたので、高齢者に入ってきちゃったのですが、はて、自分のこれからの10年先とか考えていくと、やはりどう社会貢献できるかなとか、どう働こうとか、やはり高齢の方の力をどのように引き出して、この町が元気に良くなっていけるのか、そういったところの、新しいものの導入はいいと思うのですよ。若手ができますから。我々、そういう新しい機械ものは、だんだん苦手になってきました。その辺で、労働力となるのか、高齢者の力をどう引き出せるのか、何か町長、思いを持っていらっしゃいますでしょうか。

●議長(森山木の実) 横川町長。

■町長(横川正知) 結論から言いまして、今具体的に、その動きはしてないということでございます。ただ、時代の流れの中で、置かれている状況も踏まえて考えてみるに、佐藤議員がおっしゃること、私は、全くそのとおりでなというふうに思っています。そんな意味では、ひとつは、法律的にですか、いわゆる高齢者の定義というものが、もう本当に数十年前に、それから高齢者にするというような決まりが出たわけでございます。決まりと言いますか、定義をされたわけでございます。私は、近隣の長野市の市長、こう言っていますが、その定義をある面では変えなくちゃいけないんじゃないかと。それぞれ健康寿命としても、うんと寿命が延びているわけでございますし、それから、十分健康で働けるという状況がありますので、高齢者という定義について、私自身も、ちょっといかなものかという思いは持っています。ちょっと余談で、そのようなことも申し上げました。現状の中で、今後、高齢者の活躍の場、意欲を持って働く、地域に貢献をする、そのようなあり方をどうするかと、ひとつは今、現実的には、平成12年頃からでしたか、シルバー人材センターみたいなのがありまして、私もちょうどその時、課長でありまして、単独で立ち上げるのは難しいということで、長野のシルバー人材センターにお願いをして、当時の牟礼村と一緒に行動させていただいて、加わらせていただいたという経過があるわけでございますが、今はどちらかというところそういう場しかないなというふうに思っています。総合的に、これ町が音頭取りをするというのが必要なのかどうか、色々な状況もみながら、そういう方向性も探っていかなければいけないのではないかなということは、思っています。私自身も高齢者になってかなりになりますから、まだ何かできるかなというふうに思っていますので、そのように思っている皆さんも、多分大勢いらっしゃるのだろうと。そういう意欲をどう、まとまった力として、あるいはまとまらなくてもいいのですが、その場を設定できるかということも、その仕事ということだけではなくて、健康という問題から含めても、大事なテーマになってくるのかなと思っています。

●議長(森山木の実) 佐藤議員。

◆3番(佐藤博一) まさに昔、シルバー人材センターの設立なりでご尽力をいただいたと、それが今、シルバーさんは頑張っているらしいです。ああいった組織に属することを好まない方もいらっしやいますし、全体的にちょっと漠然としたイメージですけども、信濃町のあまりお年寄り、お年寄りって言いたくもないし、言ったら失礼かなと、そういう枠でくるものではないなと思いつつながら、やはり信濃町の皆さんは、元気だねと言われるぐらいな、なんとか町にもっていつてもらえればなと、思っております。

2番目の職員の機動力というところなのですが、ここは、これまさに書いてあるとおり、昨日と今日も同僚議員がコロナのワクチン、細かいことは、だいぶお聞きいただいてアウトラインは、私も理解しました。ただ、肝心なスケジュールは、住民福祉課長の方で、相当ご苦労されていると思うのですが、昨日も町長、住民の方にメッセージもお伝えいただいたので、非常にありがたいことだなと。そういったものをより分かりやすく、また住民の方に、また印刷物等でお知らせすると思うのですが、やはりだんだん皆、文字を読むのが苦手になってくるので、できるだけ絵を入れて分かりやすいものを作っていただけたらなと。それで、それを支える役場の職員にあっては、まさに場合によったら課を越えた連携も必要だと思いますし、これこそ書いてある職員の機動力ですね。春の10万円の給付の時の機動力は素晴らしかったなと。そういったものが、信濃町は潜在的に持っている町だと思っております。ちょっとお聞きしたいのですが、このワクチンの打つ順番ですね。医療従事者等、介護関係、歯医者さんとは分かるのですが、例えば、この一番の町の中核になっている役場の職員とか、町長とか、やはりそういう行政関係の皆さんも、私は早く打ってもらった方がいいんじゃないかと思うのですが、そういった何か、スケジュールリングというのは決まっているのでしょうか。お伺いします。

●議長(森山木の実) 横川町長。

■町長(横川正知) 職務上と言いますか、そういった中での佐藤議員のご配慮の発言かなと思います。今、何て言いますか、所管の住民福祉課の課長中心に日程を組むにも、なかなかワクチンがどういうふうな状況で配分されるか分からないというようなこともありまして、なかなか何日にやりますよということを、まだ申し上げられないということで、住民の皆様方にはなかなか困ったなという状況になっているのではないかとと思うのですが、できるだけそれは確定したら早めにお知らせし、体制ができるように整えていく、そういうことでございます。それからもうひとつは、本当にこれは、大変な事業だというふうに、私も思っています。それだけに、おっしゃっていた行政の役場職員という立場としては、場合によったら課を越えて、おっしゃるように仕事上の段取りを今から工夫してもらいたいということを、私は庁内メールの中で、メッセージとして挙げてありますし、コロナ対応についても、こういう状況だからその対応については、まさに頑張ってもらいたいということを申し上げ、この時だからこそ自治体職員として、底力を発揮してほしいというようなことを申し上げたわけで、そのことによって、更に町

民の皆さん方との信頼関係も深まるというふうな思いを持って、申し上げているところでございます。色々な中では、そういった方向で対応をしていくということでございますが、今具体的に役場職員なり町長が先に打ったらどうかと、こういうことでございます。なかなかこれ、微妙な対応になろうかと思えます。やはりそれぞれの立場で、それぞれご苦労されている方が、社会の中には大勢いらっしゃるわけでございます。そういう中では、順番が来たら率先してやっていただくということが、最も大事なことだろうというふうに思えます。あえて、職員なりを先にということは、私は考えない方がいいんじゃないかというふうに思っています。

●議長(森山木の実) 佐藤議員。

◆3番(佐藤博一) 職員を先になりというのは別に、我先にと急がせるわけではなく、やはりこの役場という組織体なりを住民の方に、医療スタッフは当たり前のことですけれども、それを更にサポートしている、主導している役場の方々も先にやった方が、私は安全かなと思ったもので、お伝えしただけでございます。特に大意はございません。あと、職員に対して今も町長、庁内のメーリング等で、けっこう叱咤激励されているなどというふうにも感じましたし、3番目の地域経済の活性化というところですが、これは先般、新聞に町内産品の物を姉妹都市に販売したということで、担当されたであろう職員さんに、うまくやったねと言って褒めたら非常に本人も喜んでいました。やはりそういう褒めてあげることは、これ町長、一番、特に大事なポジションですから、職員がいいことをやったら、どんどん褒めてください。これは、商工会からもそういった請願なりが上がってきていますので、あまり突っ込んではいけませんけれども、当然、こういう姉妹都市に、物だけ送って終わらせたのではつまらないなど。当然、町内の観光パンフレットなり、様々な業者さんの、お宿さんのパンフレット等もありますから、そういった物も一緒に送ってあげれば、味わっていただき、飲んでいただき、印刷物で信濃町を味わっていただくと。それが、将来の誘客宣伝に、お客様につながっていくのではないかと思います。町長に、ちょっとまたお伺いしたいのですが、姉妹都市さんに、こういったものを今度は能登町さんも入ってくるのかなと思うのですが、ちょっとこれは、あまり言うと向こうさんとの調整ができないと無理かなと思うことなのですが、相手様のホームページに、横川町長さんが宣伝でお出になるということにはできないのですか。逆に、うちが流山の市長さんなり能登の町長さん、実際、住民の方、姉妹都市結んでいるとはいうけれども、提携した時の握手したような写真とかしかあまり見てなくて、どここの町長でございます、市長ですという、はっきり顔がイメージできない、そういうちょっとそれだと、かなり相手さんに立ち入った話にはなるのかなと思うのですが、何かそれに対して、お考えありますか。

●議長(森山木の実) 横川町長。

■町長(横川正知) 昨年8月にも今お話しした能登町とも姉妹提携をさせていただきました。後ほどお話がまたあるのかもしれませんが、両姉妹都市に対して、信濃町の特産品と言いますか、お願いするということや、事業も実施しているわけがございます。これはやはり、お互いに姉妹都市といえども、礼を持ってお互いに対応をしていかないと、大変失礼に当たるということになってくるわけがございますので、今のお話しをいただいたような部分については、慎重にやはり対応、対応と言いますか、考えていかなければいけないというふうに思っております。仮にホームページだとかということになりますと、これはやはり、今のインターネットなりの社会ですから、逆に流山市へアクセスすれば、向こうの井崎市長の顔も見れますし、それから能登町にすれば、持木町長の顔も皆出ていますし、市の様子、町の様子も出ているわけがございますので、それはいかなものかという思いもでございます。ただ、ご質問の主旨とは違うかもしれませんが、大変それぞれ姉妹都市としての相手方の自治体でも、ご配慮いただいているなということもでございます。この際、あえてご紹介申し上げますが、流山市さんが今、1月の段階で人口20万人を突破したんです。つまり、その根底は、いわゆる都市圏からの人口が、毎年毎年2000人以上も増えている。したがって、今度学校とか、幼稚園、保育所、この増設が本当に毎年のようにやらなければいけないという立場にあるんですね。この中で、学校建設に当たって、大変ありがたいことに、信濃町産の木材を使って、流山市さんの学校を造っていただいていると。これは、私も直接的に聞いたのではないのですが、流山市さんから、そのような情報もいただいて、後々、副町長にお願いをして、調べていただいたら、長野森林組合さんが、一生懸命セールスと言いますか、営業活動をする中で、そんなような方向性になってきたということで、結論的に言えば、どういうことであれ、そんなご配慮をいただいて、材料も木材も提供、利用していただいている、これはまさに姉妹都市でなかったら、そういう配慮もいただけないのではないかなという思いもありまして、この際、ちょっと紹介もさせていただきました。

●議長(森山木の実) 佐藤議員。

◆3番(佐藤博一) 私も驚きました。20万人は、前から申し上げますように、マーケット人口がまだ増えていると。能登町さんも2万人どのくらいいらっしゃいますので、我々のお客さんも増えていると。うちから送るだけじゃなくて、今度は、能登さんは能登さんでイカとか海鮮関係が、結構有名なものがありますので、そういったものも多分、商工会さんなりをとおして行き来が、商売、売買なりができればなど。持木町長は、そういう商売の方はかなり、前から関心お持ちの方でしたので、進めていただければいいなど。また、そういった先ほどのホームページ云々は、ちょっと失礼のないように、ちょっと余計なことを言ったような気がします。あと実際、地域経済の活性化ということで、今、コロナの中で、皆さん、各事業所さんは、頂ける補助金は、だいたい申請されて頑張っていると思いますし、実際、よそのこれ、よくテレビ等で見ると話でもありますが、異業種の事業所さんがマッチングできるような、例えば、ペンションで

ご飯を作って、タクシー会社さんで運ぶとか、そういった飲食系の物をタクシー、そうすると今、タクシー会社さんもどちらかと言うと、この間聞いてみたら困っていると。長電さんも貨客混載みたいなこともやっていますし、やはり業態の違う所同士をどうつけていくかということもこれ、特に今日、回答は求めませんが、そういったものも役場の方でまた研究をして、進めていただければと思います。

次に、4つ目なのですが、ちょっとセンシティブな書き方をしてしまった面を反省しております。議会との向き合い方みたいな。まさに、これが一番、町長の実は政治の世界だと思います。私ども、4年やらせていただいて、その中で先般、信濃毎日新聞にもコロナの時の予算の使い方云々で、ちょっと記事出ちゃいましたけれども、あれはあれで、あったことは過ぎたことだと、私は思っています。そういったことを、政治家である町長が、情報を数多く収集していただき、我々のような12人の意見をよく聞いていただいて、多角的な視点で最初はやはり、先ほど一番最初におっしゃっていた住民の利益だと思うのですよね。その最大化に向けて、最後は町長が判断なりしていただければと思うのですが、そういった議会との様々な予算上のことで、実際は動いていきます。それで、これがまた来年度予算等もありますし、補正もある。そういったところでも、場合によったら何か、そういったもの、これがやはり最終的に判断されるのは、町長のまさに舵取りに我々が、議決しているだけのところですから、住民の方へもよく分かってくださるように、町長が説明をした上で、我々も補足で説明はしておりますけれども、また議会との向き合い方、別に我々と4年間、ずっと角突き合わせてくださいとも言っていないし、我々も喧嘩腰で来ている訳ではありません。認めることは、お互い認め合いたいし、そういったところで、町長も、難しいところにお立ちになっているなと思うので、また議会とどのように向き合っているかちょっと、お聞きしてみたかったなと思うので、その辺の心情を、是非お聞かせください。

●議長(森山木の実) 横川町長。

■町長(横川正知) 議会との自治体の長の向き合い方ということだと思います。私は、原則論的に申し上げれば、まさにこれ日本の制度の中で議員の皆さん方も直接選挙で選ばれます。我々自治体の長も直接、住民の選挙から選ばれてなってきたわけでございます。そういった意味で、様々なある意味、二元代表制と言われる言い方もされるわけですが、そのような中で、当然に執行する立場である私を長とすれば、責任を持って、そして議案を提出をさせていただくと、こういうことでございますし、議会は、議員の皆さん、それぞれのお立場として、議会の有する権能として、一番大きいのは議決と言う行為だと思うのです。このことについて、それぞれのご判断をもって、時々の対応をされると、これは当然のことだというふうに思います。私ども、あえて言えば、提案する側からすれば、その思いを持って提案をさせていただいて、議決をいただき、是非、執行させていただきたいと、こういう立場でございますので、この中で、過去と言いますか、この間何回か、ちょっとそういったものに修正なり、否決等々があったか

令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議 会議録(4日目)

と思います。これは、私は、私の立場としては、そのことに対して、あえて異論を申し上げる立場ではないというふうに思っていますし、これからも、一言付け加えれば、極めて残念だということ、その時も申し上げましたが、そういうことでございます。したがって、その制度の主旨をしっかりとわきまえつつ、これからも議会の皆さん方、議員の皆さん方には、真摯な対応をしてみたいというふうに思っています。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3番（佐藤博一） 当然おっしゃることは、想定しておりました。それは、今日この質問をしたのは、町長の議会との向き合い方でもありますし、逆に我々自身にも降りかかってくるのだと思っております。まさに議決というものをいい加減にやってはいけないというところが、我々の課せられたところでもありますし、また、町側としてみれば、丁寧な説明で、いかに我々を納得させるという、変な語弊がありますけれども、理解できるものとして、予算なり事業なりの、執行できるものを、ご提示いただければと思います。以上をもちまして、質問を終わります。

●議長（森山木の実） 以上で、佐藤博一議員の一般質問を終わります。この際、1時50分まで休憩といたします。

(午後1時37分 終了)